２０１１年８月１日　ITCN 夜の集会メッセージ

「夢、実現計画」＜どうせ着るなら自分の服を着よう＞

聖書箇所：創世記１２：１－４、１３：１５－１６、１５：５－６

１２：１　主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、私が示す地へ行きなさい。

１２：２　そうすれば、私はあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。

１２：３　あなたを祝福する者を私は祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

１２：４　アブラムは主がお告げになった通りに出かけた。ロトも彼と一緒に出かけた。アブラムがハランを出たときは、75 歳であった。

１３：１５　私はあなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。

１３：１６　わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる。もし人が地のちりを数えることができれば、あなたの子孫をも数えることができよう。

１５：５　そして、彼をそとに連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」更に仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」

１５：６　彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

３つのポイント：

（1）クリアービジョンを持つ

（2）要らぬものを捨てる

（3）御心の時を信じて待つ

メッセージ骨子：

＜序論＞　人は夢が無くては生きていけませんが、一旦夢を持ったら、今度はそれをどう実現するのかも大きな問題です。実現できないぐらいなら最初から持たない方がましだという考えもあるからです。アブラハムは、自分の大きな夢を実現して行きましたが、そこにはどのようなステップがあったのでしょうか。決して平たんではなかった彼の人生と、それを乗り越えて夢実現に至った道筋を聖書から学んでみたいと思います。

＜ポイント１＞　「クリアービジョンを持つ」

家を捨てて、ふるさとを離れる。これは簡単にできることでありません。アブラハムは、その決定をするうえで、ご褒美としての神の祝福に目を留めました。アブラハムにとって神の祝福は、ふるさとの土地にまさる「価値のあるもの」でした。あなたにとっての最大価値は何か、その自問自答なしに夢もビジョンも生まれません。聖書は道徳の書ではありません。何に価値があるかを徹底的に追求した本です。そしてイエス様の前にクリアービジョンを言い表すとき、今取るべき道が示されます。

＜ポイント２＞　「要らぬものを捨てる」

アブラハムは家を捨てました。全ての新しいことは、聖別すること、つまり元の自分を何かから切り離す作業が必要になります。結婚が親との分離を前提としているのと同じです。これまで集めて来たもの、必死で増やしてきたものを、一部でいいから散らす、わきに置く、その時本当に自分に必要なもの、『絶対的価値』が見えてくるのではないでしょうか？クリスチャンにとって、本当に求めるべきものは、キリストの足跡だけでいいのかもしれません。

＜ポイント３＞　「御心の時を信じて待つ」

75 歳からイサクが与えられる 100 歳までの 25 年の間に、アブラハムは女奴隷ハガルとの間に子供をもうけます。妻サラの勧めに従ったのですが、それは大きな失敗でした。しかしその失敗も含めて、アブラハムを祝福するという神の約束は寸分たがわず実現します。恐れ、疑い、失敗したアブラハムを見る時、私たちも優等生を目指す必要はない、自然体で信仰を持ち続ければよいことを知ります。持ち続けさえすれば、時至って主の約束は成るいうことを。

＜まとめ＞　ではクリアーで、ブレのないビジョンはどうすれば見つかるのでしょうか？私たちは電気製品などで使い方がわからないとき、メーカーさんに聞いたり、製品についている取扱説明書（取説）を見ます。あなたの本当の生き方は？あなたの生まれた目的は？その最大テーマに答えを与えてくれるのが、maker（創造者）であり、メーカーが手配した「取説」つまり聖書なのです。メーカーの考えに沿った「用途」を把握し、それをビジョンとし、要らぬものを捨てて、時を待つとき、あなたは水路のそばに植わった木のように繁栄すると、聖書は約束しています。